

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1990100024
法人名	社会福祉法人 ひかりの里
事業所名	グループホーム めだかの学校 悠ゆう
所在地	〒 400-0016 電話番号 055-255-6011

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月24日

## 【情報提供票より】平成21年2月1日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月27日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	11人	常勤	1人	非常勤	10人	常勤換算	6人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	<input checked="" type="checkbox"/> 有 100,000 ) <input type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有 ) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1130 円	

## (4) 利用者の概要 平成21年2月1日 現在

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	79 歳	最高	88 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひかりの里クリニック 保坂歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成21年3月3日

甲府駅北口より武田通りを少し北上した昔からの住宅密集地に位置し、近くには薬局、乾物屋、美容院、小学校等がある恵まれた生活環境にある。法人本体はケアホーム、診療所、特別養護老人ホーム、児童養護施設等を運営し、各事業所間の交流や支援体勢は図られている。敷地内には小規模多機能住宅介護事業所があり、管理者は同事業所と兼務している。民家を改装したホームはアットホームな雰囲気、利用者は持てる力を発揮し合い、親密な関係作りがされている。居間などの共有空間は幾分狭いであるが、職員は利用者の尊厳を第一に考え日々楽しく暮らせるような工夫をしている。管理者は自己啓発や職員の質の向上に力を注いでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善点①金銭領収書の送付者から受領印を貰うことは、家族が不要と断られた。ホーム側で送付した日を記載するよう話し合う。②同業者との交流は他施設で2日間の研修が実施された。③馴染みながらの利用は、事前見学や試し入居を実施した④災害対策は関係機関に協力を求めた。避難方法や避難経路の確保は検討を続けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者や職員は、自己評価や外部評価の目的や意義について良く理解はしているが、法人の新規施設開設準備のため、多忙になり、本年度は管理者のみで作成し、職員は自己評価に携わることはしていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地区の社協の会長、民生委員、包括支援センター所長、家族代表、管理者、職員1人の参加のもと2か月に1回、同一法人の運営する近くのグループホームと時間をずらして開催している。施設の事業計画、報告、外部評価結果等について協議し、意見を貰っている。利用者の処遇や来訪時の駐車場の確保等について要望が出されるなど参加者との関係作りができています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が面会や受診時等、月1回は訪ねてくる時に、様々な意見交換をしている。毎日訪れる家族からは、率直な苦情や意見が出されるようになってきている。推進会議でも、家族からの意見が活発に出される。管理者は苦情や意見を真摯に受け止め、職員会議に提案して改善を図っている。遠方に住む家族には、管理者から必要に応じて電話で情報交換をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、広報紙の配布や回覧板がまわってくる。近所の商店に利用者や買い物に行ったり、近隣と挨拶を交わすよう努力している。開設当初、利用者の声がうるさいと苦情を言ってきた住民の方とも、今では挨拶を交わす仲になっている。今後は塵収集場所の清掃等を行い、地域の一員としての役割を果たしたいと積極的に考えている。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホームめだかの学校悠ゆう

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を守り、1人1人の思いを大切に楽しく1日を過ごして頂くために「笑顔で1日を楽しく、尊厳を持って、安心した生活を」理念としている。今後も職員や家族の胸に刻みやすい理念を全職員と考えたいと前向である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に、自分の親が入居者としたら、どのようなグループホームが良いと思うか等を問いかけ、ホームが目指す理念について、管理者から説明するとともに、日々の介護の場面や職員会議の時に、確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の運動会や祭りに参加している。有価物収集に協力しているが、塵収集場所の掃除を行い、地域の一員としての役割を担いたいと計画している。苦情を言ってきた住民とも挨拶を交わす仲になるなど、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は法人全体が多忙で時間がとれず管理者が1人で作成し、職員へ内容の報告もしていない。外部評価で改善項目として4点のうち3点は改善されていたが、改善計画シートの作成はされていない。	○	自己評価は職員全員で行うことにより、目指す介護を明確にし、質の向上や士気の高揚につながるもので、職員全体での取り組みを期待します。改善計画シートは、職員全員の協議のもと、課題解決のプロセスを具体的に文章化し作成することを望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同じ法人のグループホーム「めだかの学校シニア」と同日に時間をずらして、2か月に一回、開催している。事業計画、報告、入所者の様子の情報提供とともに、地域からの苦情への対応や市の施設の活用について協力を得た。家族代表からも率直な要望や意見が出されるようになってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政手続きなどで市役所に行く時に話す、具体的な課題については、担当地区の朝日新紺屋地区の包括支援センターに相談している。	○	市町村担当者にホームの課題等を、具体的に理解協力助言を得る機会は、大切であるので、ホームから運営推進会議への参加要望や季節の行事に招待するなどして、市町村担当との連携強化を図ることを希望します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や受診のため、家族は月1度は来訪するので、その折に利用者の様子について詳細に伝えている。県外在住の家族については、管理者が定期的に電話連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から具体的な苦情が寄せられることを大切に受け止めており、苦情内容は職員会議に掛け、直ちに改善する取り組みを行っていた。管理者は苦情の内容については、自分の親の場合だったらと考えるよう職員を教育をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、日頃から馴染みのある同一敷地内にある小規模多機能居宅介護事業所や近くにあるグループホームの職員間の範囲で行い、利用者や家族の不安や不満を少なくする配慮がされていた。そのため、利用者が新人職員に教える場面も見られた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望も取り入れ計画し、2か月に1回、夜勤者以外全職員の内部研修を開催している。県や県グループホーム協会主催の研修に2、3人参加し、職員会議で全員に伝達している。職員は現場教育は自分の介護を振りかえる機会であると前向きである。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターが主催する事業者会議に出席し、情報交換をしている。また、他のグループホームに、職員を2日間訪問研修させることにより、自グループホームのケアの改善や職員の資質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人同伴での見学や2日間の試し利用を実施している。待機者は、同一敷地内に開設されている小規模多機能居宅介護事業所を利用しながら、グループホームと交流を持つ機会を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物、料理、縫い物、洗濯干しなど、利用者の出来ることを生活の中で発揮している。職員は利用者から頼られたり、信頼されることにより、介護の仕事の喜びと大切さを得られ、福祉の仕事の続けて行きたいと決意していた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の「出来ること出来ないことシートや私の気持ちシート」を一部活用している。食事時の前掛け使用は、必要な利用者のみにするなど、利用者一律の介護をしないよう心がけていた。	○	センター方式の活用を継続させる努力をし、全職員が利用者の思いを共有するよう更に期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回職員会議の折り、利用者1人1人について協議し、家族の希望やスタッフ同士の情報を共有してケアの統一を図っている。アセスメントや記録は、基本的にはセンター方式を活用している。服薬支援が、利用者ひとりひとりに即した方法でされていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度の見直しを全職員で実施している。夜勤により出席出来ない職員からは、事前に意見を提出して貰い、計画に反映させている。利用者の心身に変化や家族からの要望があった時は、管理者を中心に話し合い、随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	衣替えの支度に利用者とともに自宅に行ったり、他施設に入居している妹に面会し、姉妹が久しぶりに会う機会を作るなど、利用者や家族の気持ちに添うように努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への受診は無論、かかりつけ医への受診は、家族の状況に応じて職員が支援している。医師との連携を重視して受診状況、医師の指示内容をケアノートに詳細に記載して、全職員に周知し、受診時期やケアに遺漏がないよう細やかな配慮をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族から意向を聞くが、状況の変化に伴い医師や家族、職員と、その都度話し合い決めている。家族や本人の希望で、亡くなる前日までホームで生活をした利用者がある。今後も利用者、家族の意向や主治医の意見、職員の体制等を勘案し、弾力的に対応していく考えである。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は利用者の尊厳を大切に考えて、日々職員に問いかけている。特に共用空間である居間や食堂において、大声で「トイレや入浴の誘導」をしないよう注意をし実践されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就眠、食事時間など一定の生活時間は決めているが、食事の時間は利用者のペースに合わせた支援がされていた。利用者は自分の意志をはっきり述べたり、他の入居者の世話をやいたり、もくもくと編み物をしていたり各自が自由に行動していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回は利用者が決めた献立により買い物に行ったり調理をしている。食後の片付けは自然と利用者同士が役割分担をし、積極的に働いていた。職員は食事介助や見守りに専念しており、食事は共にしていない。	○	職員と利用者が同じ食事を楽しむことは、ケアを受ける人、提供する人という立場を超え、共に暮らすという気持ちの現われとして大切なことです。今後、職員と利用者が食卓を一緒に囲み、食事を楽しむ時間を取られるよう希望します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かして、その方の様子に応じて入浴している。普通の家庭風呂なので利用者は安心して、寛いで入浴を楽しんでいる。夜間入浴は無理だが、夕方に入浴を希望する利用者には、出来るだけ対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式の出来ること、出来ないことシートを一部活用し、編み物、習字、料理、など各自の得意分野が発揮できるよう支援している。献立の披露や挨拶の発声も利用者が担当していた。買い物や外食会等、お金を自分で使う喜びも体験している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かな日は、車椅子の方も散歩を日課としている。近くにあるスーパーや薬局への買い物も、頻繁にしている。同一敷地内にある施設や近隣にあるグループホームに職員とともにいたり、異動した職員の職場訪問を行うなどしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中はかけていない。玄関まで見送りにでて来た利用者には、職員が付き添っていた。居室には鍵はないが、2階に上る階段は民家の階段をそのまま利用しているため、夜間の間だけ階段の入り口に転落防止の柵をつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施。地域の防災訓練にも参加している。2階の利用者の避難経路の確保について検討中である。備蓄は近くにある同一法人の経営するグループホームのものを借りる予定である。	○	2階からの避難経路や避難方法については、早急に解決される事を期待します。備蓄についても、それぞれのグループホームで整備し、緊急時に対応出来るようされたい。近隣の方の災害時の支援体勢も引き続きされることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人本部の栄養士の助言を時折受けている。利用者の摂食能力に応じ普通食、粥食、刻み食等を提供し、ほとんどの利用者が完食していた。摂取量は、生活パターンシートと個人記録表に記載しているが、一表に纏めることを検討中である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、台所、食堂等の共用場所は、やや狭く利用者が1人になったり、親しい者同士でゆったり談笑できる場所の確保が難しく、職員は利用者のストレス解消を図るため、小物づくりの作業や、居室に誘導するなどの配慮をしている。	○	利用者同士や職員が、常に同じ場所で過ごすことは、親密になれるというメリットもある反面、常に他の利用者の目や声を浴びて、利用者同士のトラブルや不安感を生じる事もあるので、現行のハード面の持つ課題を、ソフト面で更に解消されるよう期待します。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが、使いなれた古い桐箆笥や鏡、小物入れなどが置かれ、利用者の入居前の姿が目につく居室や、家族からの手紙や自作の飾りを貼ってある部屋など、それぞれに工夫がされている。		